

事業実施報告

開催日	令和5年10月7日(土)		
事業名	テンパーク・絵本の森(秋編)		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	17家族53名
対象	幼児から小学校低学年を含む親子		
関係機関名			

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

絵本専門士による絵本の読み聞かせ、岩手県環境アドバイザーによる自然観察・図鑑作り・森の宝箱づくりを行った。図鑑完成後、参加者親子が交流する時間を設定した。

絵本の読み聞かせでは、絵本専門士が、秋に関する絵本『あきといえ』『おちぼがおどる』を導入として読み聞かせた。また森の宝箱づくりにつながるよう『どんぐりころもむし』を読み聞かせて、保護者に虫への対応を知らせつつ、木の実への関心を高めた。環境アドバイザーからドングリムシを動物園ではヤマネの貴重なたんばく源として与えている話へとり入れ、絵本の世界と実体験を行き来させるよう構成した。

自然観察・図鑑づくり・森の宝箱づくりは、環境アドバイザーの指導のもと、自然観察の心得を指導いただいた。特に蜂の分蜂の時期であり、飲料の管理など気を付ける点を具体的に指示いただいた。葉っぱや木の実を採集して気付いたことを小枝えんぴつで記入して、自分だけの図鑑を作成した。環境アドバイザーから「子どもの気づきをほめること」を助言していただき、保護者もスタッフも子どもの気づきを大切に言葉かけや支援を行った。ワークショップでは、作り上げた図鑑と森の宝箱を披露して、ほめ合った。閉会行事では、絵本専門士による『もうじゅうはらへりぐま』の読み聞かせを行った。子どもたちは、前に集まって、絵本の世界に引き込まれた。

〔成果〕

- ・今回、23家族70名の応募を得たが、キャンセルなどがあり17家族53名の参加となった。
- ・両講師との事前打ち合わせを2回に分けて必要な物品、曲り家周辺の木々、草花の状況を把握できた。絵本購入のため1回目は早い時期に、2回目は書籍・創作に使用する物品もそろってから最終確認として打ち合わせた。昨年好評だった絵本『たったひとつのドングリがーすべてのいのちをつなぐー』を主テーマにする計画だったが、ブナ・ドングリの大凶作という状況になったが、「どんぐりの不作は、気候変動や熊の出没など身近なニュースと自分たちの環境のつながりを考える機会にすればよい」と助言をいただき、計画を修正して開催した。まとめの一冊の絵本を『もうじゅうはらへりぐま』に変更して読み聞かせたところ、子どもも保護者も引き込まれ、身近な環境について考える契機となった。両講師の高い専門性により充実したタイムリーな内容にできた。

- ・参加者の交流の場面では、葉っぱ図鑑や森の宝箱などをお互いに褒め合う雰囲気が出て、子どもの自己肯定感の高まりにつながった。保護者にとっても、子どもへの接し方について多くの学びの機会となった。

- ・事業後のアンケートでは、参加者からは、「絵本の内容で興味を持ったことをすぐリアルに見ることができ環境がよかった」「どんぐりの虫を出す方法や、動物園でヤマネに与えていることなどを聞き、興味を持った」「子どもがこんなにも自然に興味があったのかと気づかされた。絵本もとてもよかった」「今、子育てに必要なイベントだった。すごくよい思い出になった」など肯定的な意見を得た。また、満足度に関する4項目全てにおいて、「満足」「やや満足」を合わせて100%であった。今回の事業では、本に親しみ、自然の楽しさ、面白さを親子で味わうことができたと思われる。

- ・事業にかかわるボランティアが夏編・秋編2回とも参加のため、事業の反省をもとに改善していく過程を体験させることができた。アンケートの「ボランティアの対応や指導・助言に関する満足度」も「満足」が夏編89.5%から秋編94.4%と向上した。

〔課題〕

- ・当施設もブナ・どんぐりの大凶作で熊の出没が増えた。通常の熊払い・獣除け線香を準備していたが、1週間前に日中に3頭の熊が所内を移動するのが目撃され、事業会場にも熊撃退スプレーも準備して事業を実施した。秋の自然の豊かさを味わう事業でありながらも獣対策を万全にしていける必要があり、今後も安全対策を充実していく必要がある。

- ・秋雨続きで、雨上がりには秋の草花のタネが多く付着した。追加連絡で服装について連絡したり、登山用スパッツを貸出したり、衣類用粘着テープを準備して対応した。自然観察を伴う事業のフィールド確認の重要性を改めて感じた。

状況写真



「絵本専門士による読み聞かせ」



「環境アドバイザーによる自然観察の導入」



「見つけた植物で図鑑づくり」



「図鑑と森の宝箱づくり」



「お互いの図鑑をほめる交流タイム」



「しめの一冊読み聞かせ」